

2025

6

ナイル

現代短歌ナイル

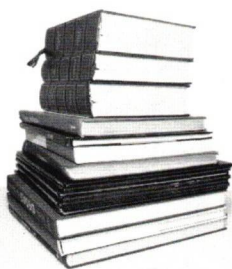
ナイルキャンパス／五代目神田伯梅

芙貴子ワールド／松本芙貴子
偶然の糸を遊ぶ【12】

4月号作品批評／宮本史一（心の花）

涼さんのにぎわいホビ～／橋本涼

高校生短歌特集【9】



NILE CAMPUS

312

伯梅閑話 ― 芸能人の感覚 ―

小村井敏子（五代目神田伯梅）

今の芸能人はそんなことはないだろうが、昔の芸能のプロは、「玄人（くろうと・プロ）が稽古するなんて恥ずかしい」というのが常識だった。まったくないわけではないにしろ、練習時間があまりなかったであろう昭和四十年前後の歌舞伎座の初日は、上演時間が延びるのは当たり前だった。六代目神田伯龍は昔の芸人。出演場所に向かう車の中などで、つい、講談の一部を演じてしまうことはあったが、私の前で稽古することはなかった。ご近所の方で、稽古する声を聴いたという方があるので、私のいない時間に稽古していたのだろう。私が家にいるときは、夫は階下、私は二階に行くように言われた。昔は、金銭を蓄えることを考えないのが芸能人。往年の大スター、エノケンこと榎本健一のことを思い出す。絶頂期に、突然、足が不自由になって芸能界を引退した。蓄えなく、自宅を売って税金を払ったと表彰されたのをテレビで見た。なんとということかと思った。彼の葬儀は、曹洞宗永平寺東京別院長谷寺（ちようこくじ）で行われた。私が育った家の向かいの寺だ。立派な葬儀なのだろうと長谷寺の参道の入り口の大きな看板を眺めたのを思い出す。伯龍は数字に強く、暗算が得意だったが、経済観念は、ご想像の通りだった。NHKで、「日蓮上人御一代記」を演じたことから、日蓮宗のお寺から、毎年の行事に頼まれるようになった。節分にお会式、法難会など。自分からギヤラ（出演料）を値切ってしまうような人だから、頼みやすかったのだろう。一年が終わると、大層豊かになった気になっていた。戦後、仕事がなかった時代があったからだろう。占領軍から見たら、戦の話をする修羅場はもつてのほかだったのだ。伯龍は外で遊ぶことは何もしない人だった。ただ、日常のお買い物が好きで、鮭なら一匹。リンゴなら一箱。そういう買い物をした。亡くなったときの貯金残高は、二十万。人におごりたい、何かをあげたい人だ。もつと使わしてやりたかったと思った。